

- 6月20日は「世界難民の日」 -

JICA 中国で食を通じた難民理解のフェアを開催

- ✓ フェア期間中、難民の母国の料理を1品日替わりで提供します。
- ✓ レストラン前では難民に関するミニ展示を行います。
料理と合わせて、難民問題を身近にとらえ、考えるきっかけとなります。
- ✓ レストラン内に募金箱を設置、趣旨にご賛同下さる利用者のお気持ちを、日本国内の難民サポートを行うNPOへ寄付します。

毎年6月20日は「世界難民の日」(World Refugee Day)。難民の保護と援助に対する世界的な関心を高めるため、2000年に制定されました。難民問題は世界の喫緊の課題となっており、日本にも、これまで1万人以上の難民が逃れてきていますが、その事実はあまり知られていません。

JICA 中国では、誰もが興味を持つ「食」を通じ、難民問題を気軽に知る機会として、今回のフェアを企画しました。「世界難民の日」を前にした2週間をフェア期間とし、ひろしま国際プラザ内レストラン「ラコルト」のエスニックバイキングメニューの1品として、難民を多く出している国の料理を日替わりで提供します。



「難民の故郷の味」メニューの一例

前：チキンカラヒ（パキスタン）

後左：エチオピア風いんげんと人参の炒め物

後右：ワッターカー（スリランカ風かぼちゃのカシ）

身近なことから難民問題を考えるきっかけとなる本フェアを、ぜひご取材ください。

- フェア開催期間： 2019年6月4日（火）～6月17日（月）
- 会場： ひろしま国際プラザ レストラン「ラコルト」（東広島市鏡山3-3-1）
- 営業時間： ランチ 12:00～13:30（ラストオーダー 13:00）
ディナー 18:00～20:00（ラストオーダー 19:30）

 MEAL for

 Refugees

【難民の母国の味から難民問題を考える"Meal for Refugee (M4R)" について】

日本にたどり着いた難民のサポートを行う認定NPO法人「難民支援協会（JAR）」が出版した、日本で暮らす難民と共に作ったレシピ本「海を渡った故郷の味 Flavours Without Borders」から始まった取り組み。両親がビルマ出身で日本生まれの難民2世である学生の発案に日本の学生が加わり、難民に対する誤解を解き、楽しみながら理解してもらおう活動として、各地の大学や企業の食堂でも展開しています。本フェアも「M4R」に則ったメニューを提供しています。

【本件に関する問い合わせ・申込み先】

 JICA 中国 市民参加協力課 担当：新川
 TEL：082-421-6305 FAX：082-420-8082
 E-mail：jcacice@jica.go.jp

地域から世界へ、世界から地域へ

元気をつなぐ JICA 中国

JICA 中国ウェブサイト

